

# 學 藝 新 聞

第31号 2026年(令和8年)3月19日発行

■ 教務部・進路指導部より …	1～3
■ 輝く人 ……………	4・5
■ 国際科 ……………	6
■ 附属中学校 ……………	7
■ 高校女子サッカー部 ……………	8

■ 発行元

学校法人 大阪学芸  
 大阪学芸高等学校  
 大阪学芸高等学校附属中学校  
 〒558-0003 大阪市住吉区长居1丁目4番15号  
 TEL. 06-6693-6301 FAX. 06-6693-5173



すでにお知らせの通り、来たる4月より学校生活が変わります。

大きな変更点は、二つ。

一つ目は、学期の区切り方です。今年度までの3学期制（1学期、2学期、3学期）から2学期制（前期、後期）に移行します。

二つ目は、土曜日のあり方です。今年度までの4限通常授業を行わず、その時間帯に進学講座、模擬試験、行事などを実施します。学校のスケジュールを入れず、生徒のみなさんやご家庭で活用していただく土曜日もあります。

新年度新学期の始めに各学年で行うオリエンテーションでの詳細説明に先立ち、知ってほしいことをかいつまんでお伝えします。



教務部・進路指導部より

# 学び方を、変えよう。

教務部より

本校では、来年度より2学期制を導入いたします。学習内容を一定のまとまりで扱いながら、定期テストや評価の在り方についても、生徒にとってより学びやすい形を、学びに関わる人々と一緒に創っていきたいと考えています。教務部からは保護者の皆様、生徒のみなさんと「学習をどうするか」の情報を共有したいと思います。

2学期制では、定期テストまでの期間がこれまでより長く感じられる場面が出てくるかもしれません。そのようなとき、「まだ時間がある」と感じて学習を後回しにしてしまうのは、決して珍しいことではありません。こうした傾向は「現在バイアス」と呼ばれることもあり、人がもともと持っている自然な心理の一つだとされています。だからこそ、学習に取り組むうえで、意志の強さだけに頼らない工夫も大切にしたいと考えています。

## 1. 迷いを減らすために「小さく区切る」「見える化する」

学習の区切りを小さくしたり、残りの時間を目に見える形にしたりすることで、日々の行動を考えるきっかけが生まれることがあります。たとえば、「次のテストまであと30日」といったことを学芸手帳に書き込んでみるだけでも、時間の流れを少し実感しやすくなるかもしれません。

## 2. スポーツの世界にもある「続く形を先に作る」発想

スポーツの世界でも、「その日の気分」ではなく「続く形」を先に作る、という考え方がよく見られます。NBAで長く第一線に立ってきたレブロン・ジェームズは、試合前の過ごし方や練習、休養をできるだけ決まった流れで行うことで知られています。毎回その場で迷いながら決めるのではなく、「いつも同じ順番で準備する」ことで余計な判断を減らし、体調や集中の波を小さくしている、という捉え方ができます。特別な精神論というより、続けやすい形をあらかじめ整えている——そのほうが実態に近いのかもしれません。

同じ発想は、日本のチームづくりにもあります。たとえば青山学院大学の長距離ブロックは、寮生活のルールとして「起床・門限・消灯」など生活のリズムを揃えることが紹介されています。

ここで大事なものは、「厳しさ」そのものではなく、勝負や練習の場面で迷いを増やさないように、日常の判断を減らしていく点です。生活のリズムが日によって大きくぶれると、身体も気持ちも揺れやすくなります。だからこそ、先に生活を整える——この順番なのだと思います。

## 3. 高校生活の中でできる「迷いを減らす型」

では、これを高校生活に引き寄せるとどうなるでしょうか。現実的なのは、「できる範囲で、迷いを減らす型」を持つことです。たとえば次のようなものです。

### 帰宅後の最初の10分を固定する

家に着いたら、英単語を10分だけ、あるいは数学の例題を1問だけ。量よりも「最初の一手」を決めておくと始めやすくなります。

### “勉強の開始合図”を作る

机に座ったら、スマホを別の場所へ置く／通知を切る／タイマーを25分にする。毎回同じ合図にすると、始めるまでの抵抗が減ります。

### 教材の「開くページ」を先に決める

「今日はどこから？」で止まらないよう、前日に付箋を貼る、ワークの範囲を1行だけ書いておく。すぐ続きを始められる形にしておきます。

### 睡眠は“意志”ではなく“設計”にする

いきなり早寝は難しいので、まずは「就寝30分前は画面を見ない」「ベッドに入る時刻を毎日同じに寄せる」など、できるものを一つだけ決めてみます。

こうした「行動をそつと後押しする工夫」は、ナッジとも呼ばれます。ナッジの要点は、頑張れと強く命じるのではなく、頑張らなくても「やってしまう形」を先に用意することです。

学習の時間や内容を具体的に決めてみたり、学芸手帳に「英語：毎日15分」「提出物：締切〇日」と書き込み、毎日チェックを入れていったりするのも、その一つです。

手帳は、完璧に書く必要はありません。むしろ、使い込まれて少し汚れたページのほうが、「その日を活きた記録」になっていきます。大人になってから昔の手帳を見返すと、「あの頃、こんなことで悩んでいたのか」「意外と頑張っていたな」と、過去の自分が少し身近に感じられることもあります。うまくいかなかった日も、空白の週も、全部まとめて“自分の履歴”として残っている。そういう記録が残るのも、手帳の良さかもしれません。

レブロン「いつも同じ流れで準備する」という考え方も、生活リズムを揃えるという工夫も、向いている方向は同じです。気合いに頼るのではなく、気合いがなくても動ける形を作ること。

2学期制という新しい時間の流れの中で、学芸手帳も上手に使いながら、無理なく続く学習の形を一緒に探していければと望んでいます。

# 土曜日を、変えよう。

進路指導部より

## 1. 受験勉強を、変えよう。

主として通常授業の続きに行っていた放課後講習を終了し、次年度より新たな講座を土曜日の午前中に立ち上げます。進路獲得に向けての学力養成と意欲の喚起を根本に据え、併せて受験勉強への取り組み方を構築していきます。

開講回数、担当各教科における内容等については追ってお知らせします。

## 2. 自習を、変えよう。

土曜日は管理自習室を9:00から18:20まで開室します。自学自習を習慣づけることが、第一志望校合格への扉を開ける鍵となります。平日は今まで通り、原則16:00から20:50まで開室しています。目標から遡って学習計画を組み立て、現時点で為すべきことを明確にしてください。為すべきことが分かったら、自習室を利用して勉学を始めましょう。

## 3. 模試を、変えよう。

一部の日を除き、模試を土曜日に実施する予定です。

平日の授業時間を確保し、育成した学力を試す模試を土曜日に実施することで、実際の入試をイメージしながら、臨場感を持ってテストを受けることができます。学力の到達度を定期的に確認するため、積極的に受験することを勧めます。

### 高校3年生では「グロースナビ」で「教科×進路×探究」を横断的に学びます

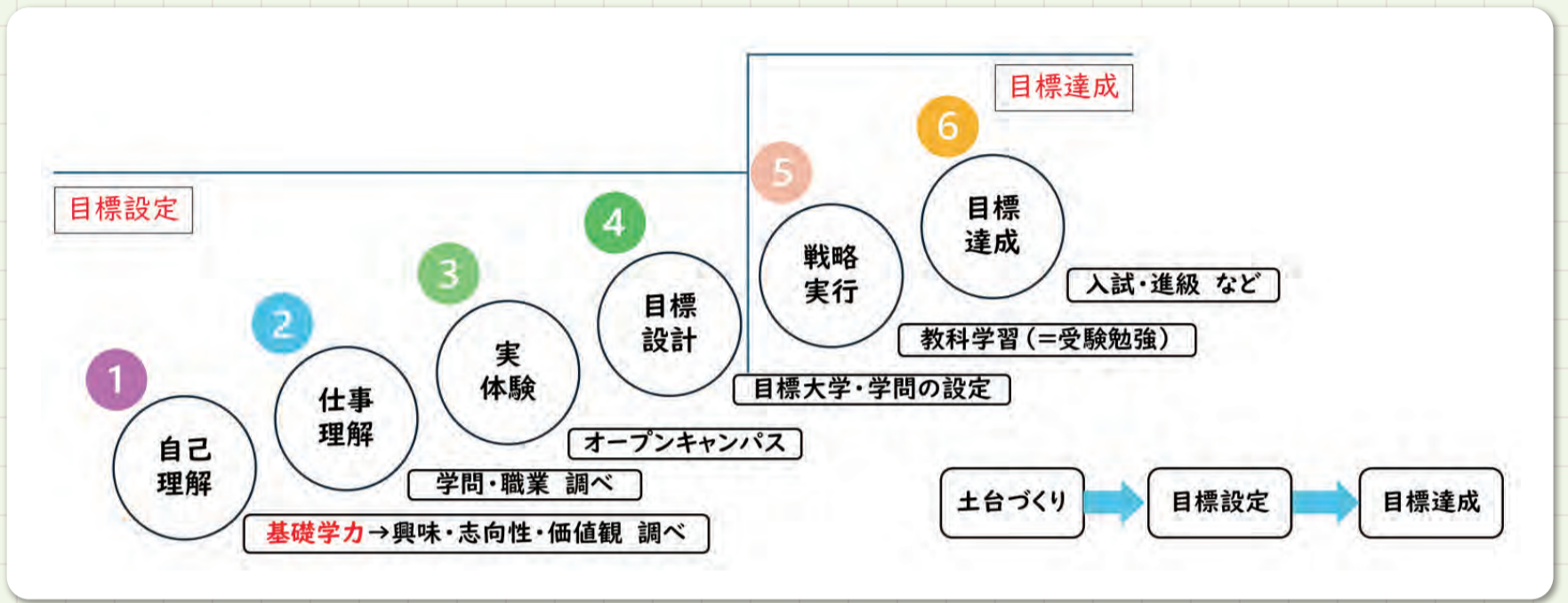
高校3年生では、教科・進路・探究を一つにつなぎ、生徒の主体的な学びを支えるツールとして、「グロースナビ」を導入します。次に挙げる4つの要素を組み合わせたサポートツールで志望校合格を目指します。

- ① 「動画コンテンツ」に「分野別・大学別の演習問題」を組み合わせた「教科学習支援サービス」
- ② これまでの自分自身の活動記録や興味・関心のある学部・学科からマッチする学校を提示してくれる「進路支援サービス」

- ③ 総合型選抜や学校推薦型選抜に必須である志望理由書・小論文への対策や面接トレーニングなど、実践で活用できる「探究支援サービス」
- ④ スタディーサポートCBT2回分(全員統一の50分版オンラインテスト/生徒ひとりひとり問題の異なる25分版オンラインテスト)

### 高校1・2年生では「キャリアナビ」で学びに対する興味・関心を引き出します

教科学習は「スタディサプリ」「スタディサプリEnglish」を活用しつつ、「キャリアナビ」サービスを導入し、探究学習の場で活用します。



point 01

## 高1・高2 保護者対象 進路講演会

Check!

### 「大学入試の現状と受験生を持つ 保護者の心構え～親のころ、子のころ～」

2026年1月31日(土)、近畿大学入学センターの屋木清孝先生をお招きして、高校1年生・高校2年生の保護者を対象とした進路講演会を開催しました。会場となった本館体育館には300名を越える保護者の方々が参加し、熱心にメモをとっておられました。「成績が伸びる生徒の共通点とは」「受験生を持つ保護者の心構え」から始まり、大学入試の現状に触れながら「目標設定をどのように考えるべきか」「保



point 02

point 03

護者が子どもにどのような声掛けをすればよいか」など、今すぐできる実践的な親子コミュニケーションの取り方についてもお話いただきました。印象に残った話題は次の5点です。

- ① Goalから現時点までを逆算して学習計画をたてる。
- ② 高2の3学期で受験モードに入っていくことが重要である。
- ③ 高2で行きたい志望校を口に出して行動した者が夢を実現させていく。
- ④ 親と子どものコミュニケーションの大切さに留意する。
- ⑤ 受験に使わない科目はあるが、関係のない科目はない。科目は連動する。日々の授業をいかに大切にすることが鍵である。

### 高校1年生は受験まで残り2年、高校2年生は残り1年を切りました。

高校1年生は、文理選択も終わり、3学期は新学年に向けて準備を始める時期です。高校2年生は、12月の進路ガイダンス、1月の生徒対象進路講演会で3年生0学期について自覚し、いよいよ始まる受験に向かって意識を喚起する時期です。もうすぐ4月を迎え、それぞれの道に突き進んでいけるように、保護者の方々の支援が不可欠です。ご家庭でも「夢を生むコミュニケーション」を大切に育ていただき、4月を迎えた生徒たちがそれぞれの道を邁進して行くためのご支援をどうか宜しくお願いいたします。



卒業生・在校生の活躍



# 応援を力に 感動を創り出す

周りの人たちの支えと応援が現在の自分を創り、その支えと応援に対して感謝の意を言葉に表し伝えることが、自身のパフォーマンスの原動力となっていく。パフォーマンスに感動してくださった人たちから応援をいただき、感謝の言葉を伝え、それがさらなるパワーとなる・・・目標の頂へのループを駆け上がっていくMomoka Sandaさんに、お話を伺いました。



## Momoka Sanda さん

### ▶ 大阪学芸高等学校卒業年度・卒業後の学歴・職歴について

私は大阪学芸高等学校特技コースを2015年3月に卒業しました。特技はダンスです。

卒業後は大学へ進学するも、自身の目指すダンサーとしての将来を見据え、進路を再考。パフォーマンスの道に専念することを決意し、中途退学しました。

高校在学中よりパフォーマンスユニット EL SQUAD に所属し、メンバーとして活動を続けてきました。2015年12月には宮本亜門氏 演出・脚本、KREVA 氏 主演の舞台「SUPER LOSERZ SAVE THE EARTH ～負け犬は世界を救う～」に出演。以降、日本国内のテレビ番組へのパフォーマンス出演や舞台単独公演への出演、海外公演への出演など、国内外を問わず活動の場を広げています。

2016年より関西のテーマパークにてダンサーおよび振付師として関わり、ショー制作・演出面にも関与。

世界遺産である二条城を舞台にした夜の体験型イベント「ワントゥーテン(二条城夜会)」(2021年11月5日～12月12日開催)でAI×巨大プロジェクト×ライブパフォーマンスの演出・振り付けを手がけるなど、テーマパークにとどまらず幅広く活動させていただいています。

そして2019年11月、シルク・ドゥ・ソレイユにダンサーとして入社。

同カンパニーにおいて、「BAZZAR(バザール)」(2019年11月～2025年1月)「'Twas the Night Before...」(2025年11月20日～12月28日)のワールドツアーショーに出演しました。

### ▶ 現在なさっているお仕事についてうかがいます

現在はシルク・ドゥ・ソレイユと日本国内での活動を並行して行っています。

所属するシルク・ドゥ・ソレイユのショーはクリスマスシーズン限定公演のため、オフシーズンには日本に拠点を移し、関西のテーマパークにて、振付師およびエンターテイナーとして活動。併せて、私立の中学校・高等学校にてダンスおよび表現力指導を担当し、次世代表現者の育成にも携わっています。また、SNSを通じた発信にも力を入れています。

Instagramでは「シルク・ドゥ・ソレイユで働く日本人ダンサー」を代名詞に、フォロワー約5万人を獲得。

YouTubeチャンネル「Peach\_Flower\*もも」(登録者約2.5万人)では、実際の舞台裏やリハーサル風景、オーディションの様子や海外での生活などを発信。企画立案から撮影・編集までをすべて自身で

行い、リアルな現場の姿を継続的に届けています。

### ▶ どのような高校生活を送っておられましたか

特技コースに在籍していたことで、ダンスに常に本気で向き合い、取り組む環境に身を置くことができました。

このコースにはさまざまな分野で特技を磨く生徒が集まっており、同級生の挑戦や活躍が日々大きな刺激となっていました。友達の努力や成長を間近に感じることで、「自分もまだまだやらなあかん!」と思わせてくれる瞬間が多く、学校を楽しみながらダンスに本気になれる日々を過ごしていました。

クラス全員がそれぞれ特技を持ち、夢や目標に向かって真剣に取り組む姿はとてまかつよく、その雰囲気の中で過ごした高校生活は、現在の自分の原点となっています。



### ▶ 現在のお仕事を目指したきっかけは何ですか

シルク・ドゥ・ソレイユを目指したきっかけは、高校での学校生活の中にありました。

同じクラスの友人から「シルク・ドゥ・ソレイユのキャスティングから自分(その友人)宛に直々に声がかかった」という話を聞き、「そこにダンサーはいるのだろうか?」という純粋な疑問が心に湧きました。

数日後、シルク・ドゥ・ソレイユのショー「MJ ONE (Michael Jackson ONE)」に出演する日本人男子新体操選手に密着したテレビ番組を、家族と共に偶然見る機会がありました。

「これが、友達が言っていたカンパニーなんだ」と興味が湧き、自然と画面に引き込まれていきました。番組の中で、そのショーに出演するダンサーの踊る瞬間が映し出された時、理由は分からないながらも直感的に「ここで踊る。これが自分の夢だ」と強く感じたことを、今でも鮮明に覚えています。

その瞬間が、シルク・ドゥ・ソレイユを目指す原点となりました。

### ▶ 現在のお仕事に関わるために努力なされたことや苦勞なされたことを教えてください

自分自身の中では、目標や夢を実現するために行動し、試行錯誤を重ねることは必要不可欠だと思っていて、「努力しているかどうか」を深く考えたことはあまりありません。努力しているかどうかは、自分で決めるというより、周りの人が感じ取るもの

なのかもしれない、と今は思っています。

苦勞した点を挙げるとすれば、「エンターテインメントの世界では、仕事は待っていてもやってくるものではなく、自分から掴みに行かなければならない」という現実と直面することです。2019年のパンデミックでは、仕事を失いかけた経験もありました。

また、シルク・ドゥ・ソレイユ「BAZZAR」に所属していた時に、「1か月後にショーがクローズする」と突然知らされたこともあります。すでにリハーサルが始まっていたにもかかわらず、公演予定だったショー自体が急にキャンセルになることもありました。思いもよらないタイミングで仕事が白紙になることもある状況の中で、そこから気持ちを切り替え、次へ進むためには、精神的にも体力的にも踏ん張る力が必要でした。

それでも、これらの経験があったからこそ、環境の変化に柔軟に対応し、自分で道を切り開いていかなければならない、と思うようになりました。

### ▶ 現在のお仕事に関わるために必要な知識・技能・資格は何でしょうか

私は英語を話すことができない状態で海外のオーディションへ飛び込みました。運よくシルク・ドゥ・ソレイユに入社できたものの、高校まで習った英語もまともに使えないレベルでした。現時点では、英語を話せないと入社できないという項目は採用条件にはありません。でも、コミュニケーションツールとして英語は必要です。

求められるレベルのパフォーマンスや技術に達していたとしても、自分の興味あるポジションに空きがなかったり、作品や役柄との相性が合わなかったりすれば、残念ながら仕事につながらないこともあります。よって、実力だけでなく、運も大きく関わってきます。そして、「今だ!」と思った時にその運を掴む判断力も必要となります。

私は幸運なことに、オーディションから3か月後に連絡をいただきました。ただ、2018年に同じタイミングでオーディションを受けていた人たちの中で、現在シルク・ドゥ・ソレイユで仕事ができているのは私だけです。オーディションは毎年行われているため、何度も挑戦し続けている人もいます。

### ▶ 現在のお仕事の魅力・やりがい・苦勞について教えてください

夢だった場所で実際にパフォーマンスできることは、本当に幸せです。

パフォーマンスが終わり、客席側に照明がついてお客さんの笑顔が見えた時、本当にやりがいを感じます。

ただ、夢を叶えて満足で終了、ではなく、そこからまた新たなスタートです。日々のスキルアップはもちろん、怪我しにくい体作りとモチベーションの維持に努め、心身共に成長しているか常に自分に問い続け、試行錯誤を重ねていく。これこそがこの仕事の魅力で、やりがいになっています。

「公演を見にきてくださる方の人生を変えるかも知れない」

そう思いながら日々パフォーマンスしています。今は現役としてステージに立っているの、目の



前のことに集中できており、苦勞と覚めることはあまりありません。でも、引退したあとに、「今から思うとあの時は大変だったな。でも、あの時があってこそ今だよな」と笑って振り返ることのできるような経験を重ねたパフォーマンス者になりたいと思います。

### ▶ 将来の目標および夢について教えてください

シルク・ドゥ・ソレイユでパフォーマンスする夢は叶えることができました。

ただ、私が高校生の頃にテレビ番組で見たショー「M J ONE (Michael Jackson ONE)」でパフォーマンスする夢は、まだ叶えることができていません。

今、それは単なる夢ではなく、達成したい明確な目標です。

現役でパフォーマンスをしながら平行して、夢や目標がある人を本格的に指導していくことも、自分の目指す姿のひとつとして持っています。

### ▶ 在校生へのメッセージをお願いします

好きなこと、勉強、部活、特技。

どんなことであっても、本気で何かに向き合っている人の姿は、自然と周りの人の心を動かします。

まずは身近なこと、簡単なことで十分です。小さな一歩の積み重ねが気づいた時には大きな力になっています。本気で取り組んでください。そして、感謝の気持ちを持ち、その気持ちをぜひ言葉にしていってください。

私は、自分一人の力だけで夢を叶えてきたわけではありません。周りの人が応援してくださり、支えてくださったからこそ、今ここに立っています。

すでに目標や夢がある人は、恥ずかしがらずにどんどん口に出してください。言葉にすることで、自分自身も本気になり、自然と行動に移せるようになります。

何かを成し遂げる道は、決して平坦ではありません。それでも、その山あり谷ありの途中には必ず「楽しい」と感じられる瞬間があります。辛くても、ネガティブな気持ちに沈んでしまうのではなく、前向きに捉える力を、今のうちから身に付けてほしいと思います。

この考え方は、まだやりたい事が定まらず探し中であるあなたにとっても同じです。

少しでも興味の湧いたことがあれば、友達に話してみたり、周りの大人に伝えてみたりしてください。きっと、あなたの力になってくれる人が現れます。

日々、己との戦いの中、立ち止まったり悩んだりすることもあると思います。そんな時は、少しでも心の躍る方を選択してください！



# 目標に向かう階段を必死に上っていく 悔いなき努力は自分の宝物

かわかみ

まなか

川上 真花さん

高1・モトクロス

### 【主な競技成績】

2018	近畿モトクロス選手権	50ccチャンピオン
2020	中部モトクロス選手権	65ccチャンピオン
2021	中部モトクロス選手権 全日本モトクロス選手権	ジュニア 85ccランキング5位 レディースクラス ランキング12位
2022	中部モトクロス選手権 全日本モトクロス選手権	ジュニア 85ccランキング2位 レディースクラス ランキング7位
2023	中部モトクロス選手権 全日本モトクロス選手権	ジュニア 85ccチャンピオン レディースクラス ランキング4位
2024	全日本モトクロス選手権	レディースクラス ランキング3位
2025	全日本モトクロス選手権	レディースクラス ランキング14位 (2025シーズン前に大腿骨骨折により前半戦1~4戦まで欠場復帰後2位2回、最終戦で優勝)

### ▶ 競技を始めたきっかけは何ですか

父がロードレースの元国際A級、兄がモトクロスの元国際A級、という、幼いころから身近にバイクのある環境で育ち、その影響もあって2歳からモトクロスを始めました。

### ▶ 競技前・競技中・競技後はそれぞれどんな気持ちですか

スタート前はいつもドキドキしています。でも、その緊張を楽しみながら、「自分ならいける」と言い聞かせています。そうすることで、集中し、落ち着いた気持ちでスタート地点に向かうことができます。

競技中は「楽しむことを忘れない」という姿勢を大切にしています。また、「絶対に勝つ!」という信念を持って、冷静さを失わないよう、強気になりすぎて焦らないよう心掛けています。競技後、やり切ったという思いから、まずは緊張の解ける感覚が強くなります。

負けた時は、「もっと練習しておけばよかった」と心から思います。コースを攻略できなかったことが悔しくて、何が自分に足りなかったのかと自問します。

一方で、勝てた時には「一生懸命頑張ってよかった、自分の走りができてよかった、諦めずに全力レースができてよかった、努力してきてよかった」と実感します。

### ▶ 競技を続ける中で、良かった・楽しかったと思えることは何ですか また、辛いと感じることがあれば教えてください

良かったことは、体力や精神力がつき、自分の成長を実感することができたことです。練習の成果がレースの結果として表れた時や、応援してくださるファンの方々の存在が嬉しく、それらがモトクロスを続ける楽しさにつながっています。

逆に、思うような結果が出ない時や怪我をしてしまった時は辛いと感じますが、その経験が自分を成長させてくれると考えています。



### ▶ 学業との両立に関して努力・工夫していることを教えてください

平日は授業を最優先にし、練習は休日に集中して行っています。大会や練習で学校を欠席してしまったときも、移動時間を活用して学習の遅れが出ないように心掛け、提出物なども必ず出すように気をつけています。

### ▶ 今後の抱負や将来の目標について聞かせてください

2026年度の目標は、全日本モトクロス選手権LMX年間チャンピオン、FIMモトクロス・オブ・ネーションズ(フランス)選出、中日本選手権NA年間チャンピオンになることです。

そして2027年度は全日本モトクロス選手権LMX2年連続年間チャンピオンになり、全日本モトクロス選手権IB年間チャンピオンを獲得することが目標です。

将来的には海外でも活躍できる選手になるため、努力を忘れず1回1回の練習を大切に、着実に速くなっていきたいと望んでいます。

### ▶ 在校生への一言をお願いします

皆さんも、必ず夢や目標を持ってほしいと思います。目標もなく「今、ただひたすら頑張る」では辛いだけのようになります。私は、今年も目標はもちろんですが、5年後、10年後のことも考えて取り組んでいます。日本一になる、世界一になる。目標は様々だと思いますし、誰もが世界一になれる訳ではありません。それでも、夢に向かって必死に階段を上るこの取り組みは、必ず自分の宝物になる、と感じています。

失敗して笑われたりす

ることもあるでしょう。でも、自分にとって必要なのは「悔いのない努力と経験」だと信じています。

皆さん!頑張って頑張って頑張りましたよね!



国際科

# ニュージーランド・ネイランド高校との バレーボール交流・国際交流

2025年12月11日(木)から15日(月)までの5日間、ニュージーランド・ネルソンのネイランド高校女子バレーボールチームが本校を訪れ、バレーボール交流と国際交流を行いました。



昨年、本校国際科から4名の生徒がネイランド高校へ留学しており、今回の交流は、両校の絆をさらに深める好機となりました。

ネイランド高校からは、ウィルソン校長を始めとして先生方4名と生徒13名が来校されました。

初日には、本校国際科の生徒と教員が中心となり、日本の伝統的な遊びや、ひらがな・カタカナの読み書きなどを通して日本文化を紹介しました。ネイランド高校の生徒たちからはニュージーランド文化の紹介があり、互いの文化を学び合う時間となりました。

翌日からは、バレーボールを通じた交流が続きました。まずは、本校女子バレーボール部との合同練習、その後は、ネイランド高校、香ヶ丘リベルテ高等学校、東住吉高等学校、大阪学芸高等学校、大阪学芸高校附属中学校の計5校が参加する交流試合が行われました。本校バレーボール部にとっては、海外校チームが参加する初めての試合となり、ネイランド高校も本校のバレーボール部のレベルの高さに驚くなど、互いにとって大いに刺激になったようです。ネイランド高校の生徒は、さらに関西大学第一高等学校でもバレーボール交流を楽しみました。



最終日には、2026年1月からニュージーランドでの留学を予定している1年留学コース高校1年生8名が、ネイランド高校の生徒たちに大阪市内を案内しました。難波八坂神社を訪れた後、心齋橋や難波の街を散策。さまざまな店舗を巡りながら、本校生徒たちが英語で大阪の魅力を紹介しました。

参加した本校生徒の感想から一つ紹介します。「ネイランド高校の生徒さんはとても優しく接してくれました。国や文化が違って英語でコミュニケーションを取れる楽しさを感じました！」

今回の交流は、バレーボールの技術向上にとどまらず、互いの文化を理解し合う貴重な機会となりました。5日間にわたる合同練習、試合、文化交流を通して、ネイランド高校と本校の生徒たちは友情を育み、国際的な視野を広げることができました。

遠路はるばる大阪までお越しくださったネイランド高校の皆さん、本当にありがとうございました。また会える日を楽しみにしています！



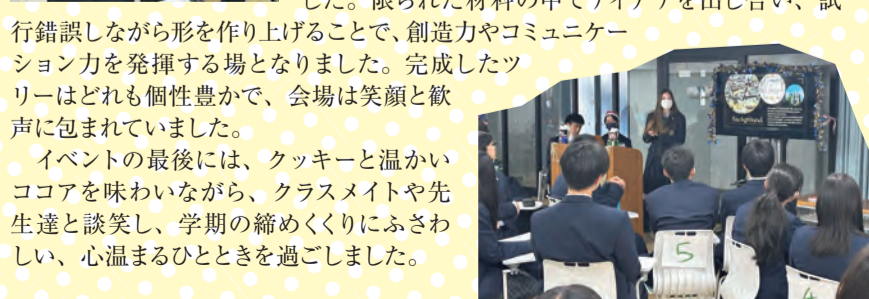
## ダブルディプロマコース イベント報告



全学年A組の生徒たちは、12月18日(木)に校外学習として大阪府池田市にあるカップヌードルミュージアムを訪れました。当日は、事前に用意したオリジナルの謎解き活動に挑戦しながら館内を見学しました。生徒たちはグループで協力し、展示をよく観察し意見を出し合いながら問題を解くことで、インスタントラーメンの歴史や発明に込められた工夫、挑戦することの大切さについて、楽しみながら学ぶことができました。

見学後は、体験プログラムとしてチキンラーメン作りとオリジナルカップヌードル作りを行いました。チキンラーメン作りでは、小麦粉をこねて麺を作る工程から始まり、蒸す・味付けするなどの工程を通して、普段何気なく口にしている食品が多くの手間をかけて作られていることを実感しました。また、カップヌードル作りでは、スープや具材を自分で選び、カップの外側には思い思いのイラストや文字を描いてデコレーションしました。世界に一つだけのオリジナルカップラーメンが完成し、生徒たちは互いの作品を見

せ合いながら、達成感に満ちた表情を浮かべていました。翌日の12月19日(金)には、学校にてウィンターフェスタを開催しました。ウィンターフェスタでは、生徒が中心となって準備したクイズ大会や、スイス出身の留学生による自国の文化紹介のほか、カラオケでクリスマスソングを歌う企画など、さまざまな催しが繰り広げられました。生徒たちは企画する側・参加する側の両方の立場を経験し、協力しながらイベントを作り上げる楽しさを味わうことができました。また、スパゲッティとマシュマロのみを材料として使用し、グループ対抗でクリスマスツリーを制作しました。限られた材料の中でアイデアを出し合い、試行錯誤しながら形を作り上げることで、創造力やコミュニケーション力を発揮する場となりました。完成したツリーはどれも個性豊かで、会場は笑顔と歓声に包まれていました。イベントの最後には、クッキーと温かいココアを味わいながら、クラスメイトや先生達と談笑し、学期の締めくりにふさわしい、心温まるひとときを過ごしました。





附属中学校では毎年12月に、日頃の英語教育や国際理解教育の成果を試し、多文化共生の大切さをより深く理解するために「マルチカルチャーデー」という日を設けています。  
 今年度はまず中学1年生と中学3年生がそれぞれの学びに臨みました。  
 なお、中学2年生は2026年3月、キッザニア甲子園「English Wednesday」に参加しました。

# 中学1年生

12月17日(水)

(校内)

中学1年生は、公益財団大阪府国際交流財団よりOFIX国際理解教育外国人サポーターの方を派遣していただき、異文化交流体験を行いました。今年度は韓国・中国・モンゴル・ベトナム・パキスタンの5カ国の留学生の方に来ていただき、様々な国の文化や遊びを体験しながら学びました。  
 始めの1時間はホールにてサポーターの方々から、それぞれの国の紹介やその国での生活のお話を聞きます。テレビや本の中で見聞きした情報だけでなく、実際にそこで暮らしていた方々の話からは、今まで知ることのできなかった新しい知識を得ることができました。さらに、日常会話や簡単な挨拶とそれらを記す文字を学んだり、自然や町の風景の写真を見たりしました。「知る」ことによって驚きと感動が生まれ、さらにもっと知りたいという意欲が大きくなったようです。

次は体育館やホールに分かれ、各国

の文化を実際に体験しながら交流を深める時間です。各国の言語を使ったゲーム、国に関するクイズ大会、太極拳やカパディのような体を動かすアクティビティ……と様々な体験をしました。最初は緊張していた生徒たちですが、すぐに打ち解け、留学生の方々に積極的に話しかけたり質問をしたりしていました。「もっと時間が欲しかった!」という声もあり、楽しく有意義な時間を過ごすことができました。



# 中学3年生

12月19日(金)  
12月22日(月)

(ECC国際外語専門学校)

中学3年生は梅田にあるECC国際外語専門学校「グローバル体験プログラム」に参加しました。搭乗手続きや入国審査、ホームステイ先での交流を体験できる「英語で留学・ホームステイ体験」コースに参加しました。  
 まずは事前学習の時間。テキストを見ながら空港での手続きの流れや入国審査でのやりとりを練習します。そのあとは空港のチェックインカウンターや飛行機内を模したシチュエーションルームにて、手続きの流れ、機内での過ごし方など、空港に到着するまでを全て英語で体験します。

ホームステイ体験では「ホストファミリーに自己紹介をして、持ってきたお土産の扇子の説明する」ことが目的です。留学生スタッフと練習したあとに、別室で実践の時間を設けます。留学生スタッフが見守るなか、一対一でのやりと

りに緊張した表情だった生徒たちも、「Excellent!」と誉められて、ほっとした笑顔を見せました。  
 最後は留学生スタッフとのフリートークの時間。自分や相手の趣味や好きなもの、国や文化の話などをたくさんお話しできました。

行く前は「きちんと話せるかな」と心配していた生徒たちですが、いざ始めてみると、知っている英単語などの表現を駆使し、身振り手振りも交えながら一生懸命に取り組んでいました。そうこうする間に緊張や不安も忘れてしまったようで、最終的には笑顔あふれる時間を過ごすことができました。



中学2年生は勉強合宿を行いました。

# 中学2年生

12月18日(木)~  
19日(金)

(ホテルクラシア大阪ベイ)

中学2年生はホテルクラシア大阪ベイにて勉強合宿を実施しました。例年は夏に行われていますが、関西万博開催期間を避けるため、今回のみこの時期に移しました。

この勉強合宿は、勉強だけではなく、中学3年次の修学旅行を視野に入れ、ホテル宿泊でのマナー・ルールを身につけることも目標に掲げています。

10時に現地に集合して入所式を行ったあと、さっそく授業スタート。国語・数学・英語の3教科、1コマ70分の授業を行い、そのあとは先ほど授業で習った単元を復習する自習の時間の時

間を設けます。自学自習の時間では各々のペースに合わせて問題を解きますが、分からない部分が出てきた場合はすぐに教員に質問できます。そして、勉強の成果が表れているかの確認として、テストも行います。

生徒たちの唯一(?)のリラックスタイムは食事の時間。友達と和気藹々とおしゃべりを楽しみながらおいしいご飯でおなかを満たした後は……また勉強時間が続きます。1日目は22時まで、2日目は15時20分まで、食事と入浴、就寝の時以外はすべて「勉強時間」という2日間を過ごしました。

行く前は眉間に皺を寄せて「乗り越えられるかな」とため息をつく様子もありましたが、2日間のスケジュールをこなして、眉は晴れやかに広がりました。「思ったより時間が早く過ぎた」「分からなかったところが理解できた」など、力のついたことを実感できたようです。



高校女子サッカー部

# 全国高等学校 女子サッカー選手権大会に出場



## ★ SOCCER ★

高校女子サッカー部は、2025年12月29日(月)から行われた全国高等学校女子サッカー選手権大会に、大阪府代表として出場しました。

1回戦は神奈川県代表の星槎国際高校と対戦。技術力のある相手に対して全く臆せず、前線からの積極的な守備で主導権を掴んで6-1で勝利し、初戦を突破しました。

2回戦では高知県代表の高知高校と対戦。相手の堅い守備に苦戦しながらもセットプレーなどから得点して4-0で勝利し、3回戦に駒を進めました。

3回戦は九州の強豪である鹿児島県代表の神村学園との対戦でした。前半に2失点し、追いつける展開となりましたが、セットプレーの攻撃から後半同点に追いつきました。この勢いを駆って逆転を目指しましたが、終盤少し足が止まった隙に失点を喫し、2-3で大会から退くことになりました。

今年のチームは春から多くの試練を経験してきました。だからこそ、全国大会出場の切符を掴み、3回戦まで進むという高い景色を見ることができたのだと思います。高みを見た分、今大会での敗退の悔しさはより大きく感じられました。しかし、それもまた今後の糧になると信じ、悔しさを来季に向かうエネルギーに代えていきたいと奮い立っています。

高校3年生は今大会が高校サッカーにおけるひとつの区切りとなります。まずはしっかりと休み、それぞれの前に開ける次のステージに向かって進んでください。

皆様からいただいた多大なご支援に感謝すると共に、引き続き女子サッカー部への応援を宜しくお願いいたします。

